

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690300021		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	京都壬生ケアセンターそよ風(たんぽぽユニット)		
所在地	京都府京都市中京区壬生天池町24番地		
自己評価作成日	平成27年7月25日	評価結果市町村受理日	平成27年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&Jigvovocd=2690300021-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅淡町83番地の1「ひと・まち交流館 京都」1F		
訪問調査日	平成27年8月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体拘束廃止を宣言し、その人がその人らしく生活できるよう支援します。家族様への連絡、またご意見ご要望を頂き、ケアプランに反映出来るように取り組んでいます。希望があれば特別な医療行為が無い限り、慣れ親しんだ居室で自然な形で安らかに逝く事ができるよう、そよ風で見守ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR二条駅から徒歩8~9分。住宅街の一角に、デイサービス(1階)グループホーム(2階)、敷地内の通路を隔て反対側の1階に厨房・駐車場、2階以上がショートステイと、足場の良い広い敷地に設けたサービスの拠点である。グループホーム「そよ風」(以下ホーム)は、開設9年目を迎え高齢化が進み、要介護4以上が半数を占める。しかし広いリビングには、広告紙で簡易ゴミ箱を折る人、ジグソーパズルに取り組む人、かぎ針で編み物をする利用者達の姿が見える。当ホームでは毎年実施している家族宛アンケートに「日中の過ごし方」の項を設け家族の意向を聞き、利用者の素振りやサインを読み取り、思いや要望に沿った介護を目指している。家族は外部評価時のアンケートや、先の調査においても回収率8割と協力的である。運営推進会議も家族は参加し、意見を交わしている。総じて、家族のケア環境への関心や期待は大きい。家族のケアに向けた目線は厳しいが、暖かな姿勢で職員を支援している。職員も応えるべく、公休を割き研修を受けるなどの努力をしている。このような利用者を囲む家族・職員関係は当ホームの優れた点と評価できる。この関係がケア環境の向上に繋がることを切に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットの入り口にユニット理念を提示し、理念を意識したケアを心がけている	各ユニットの入口に「利用者個人に寄り添う介護」、「…笑って過ごす…」と職員で話し合い決めた理念が掲げられている。ユニットにより利用者の関心や興味に着目しケアに臨んでいるユニット。穏やかな表情や笑顔に繋ぐため、素振りやサインを大切にしているユニットと、法人の理念・目標を踏まえたケアを心がけ実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し回覧板で地域のお知らせや、運動会見学、朱五まつり参加などをして交流を図っている	自治会に入り、地域行事に参加し、座席を準備してもらったりしている。散歩時には近所の人達と挨拶を交わし、花を届けてくださる方もある。1階のデイサービスの催しに参加することもある。昨年まで続いていた地元小学生との交流は中断しているが、3・4年生の「チャレンジ体験」を新たに受けている。昨年立ち上がったショートステイの屋上を地域に開放し大文字鑑賞を予定していたが雨のため中止となったが、今年も予定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで入居者様の日々の生活の報告をし認知症の理解を深めて頂くようお話しさせて頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度家族、自治会長、地域包括職員で開催し会議で頂いた発言を積極的に取り入れている。議事録を家族に送付し、開催前にはご案内と意見・要望用紙を一緒に送付している	メンバーは家族・自治連合会会長・地域包括支援センター職員である。家族は3～4名の出席がある。事業所から活動内容の報告が行われ、参加者は「見守りのためのマンパワーの増員を」、「個々の人を見ている。気持ちの入り方が嬉しい」といった運営やケアに関する忌憚のない情報交換がなされている。会議録は家族全員に送付している。	会議においては地域の幅広い角度からの意見交換が交わせる様、ボランティア活動等の地域福祉に携わっている人達の参加を検討されてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事について区の担当課に電話や訪問をし助言を得ている	上記会議録は、区の担当課に届け、相談・質問等、電話でのやり取りは多い。行政主催等の地域の関係諸会議への参加は現在のところ充分出来るとは言えない。	現行のケアや運営に活かすヒント等を得る機会になり、地域の人的資源を含む社会資源との連携の構築に努められることを期待する。

京都府 グループホーム 京都壬生ケアセンターそよ風 たんぽぽユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止を宣言しユニット入り口に掲げている。委員会を定期的に開催し話し合っている。玄関の施錠については安全性を重視し施錠している現状である	身体拘束は重要事項説明段階で利用者(家族)に説明している。今回新たに「身体拘束廃止宣言」が設けられ3事業所の管理者とセンター長による安全委員会が年3回開催され、職員の全体会議でも職員間の見解の違いの統一に向け話し合っている。法人作成の「虐待の芽チェックリスト」は年3回無記名で行い、集計を公表し振り返りの機会としている。入口は安全面を考慮し施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の日チェックリストを作成し年3回無記名で職員に配布。結果を全体会議で公表している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時に必要な方には後見人制度についてお知らせしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず読み合わせを行い疑問点の解決を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時には必ず声をかける。家族宛のアンケートも送付している	家族面会時には家族との会話を大切に意見や要望を聞き取るようにしている。満足度調査を年1回行い、結果や改善策は運営推進会議に報告している。アンケート回収率は8割と高い。運営推進会議への家族の参加もあり、家族との信頼関係を築き実践面で意見の反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	併設する事業所、厨房とともに職員会議を月1度開催し、各部署順次発言する	日常的に職員意見の聞き取りに努めている。全体会議(グループホーム、デイサービス・ショートステイ・厨房)やユニット会議(2ユニット合同)で職員は意見・提案を述べる機会がある。現在議題に挙げられている職員体制については、管理部門で職員募集等の対応がなされている。	

京都府 グループホーム 京都壬生ケアセンターそよ風 たんぽぽユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リフレッシュ休暇制度ができ休日が増加した。また職員の声を拾い上げるよう声かけをおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度施設内での研修実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加を促している。情報の交換の場や勉強会によってサービスの質の向上を目指している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家人への聞き取りや本人面談による聞き取り、居宅ケアマネによる情報提供を精査しユニットで話し合いを持つ		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談で十分な聞き取り、相談、提案を行い関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の様子や訴え、家族からの情報等から必要なサービスを見極め提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意とする事を見極め日常的に依頼するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子を詳しく伝え、本人の困りごとの解決の為助言を頂くようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の知人來訪時はゆったり過ごせるように面会カードとともにお茶を提供している	事業所は土地開発された場所に建設されており、近場からの入所は3割程度、他は遠方からの入所者である。よって馴染みの場所も遠い。個別支援として買物に行く時に誘い店内のウインドーショッピングを楽しんだりの工夫をしている。地元の利用者には、近所の知人や友達の訪問があり、來訪者にはお茶の接待などをし、ゆっくりくつろげる場になるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会等のレクの場合で一同で楽しんで頂く。また毎回食事の場での交流も心がけている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談の窓口を紹介し不安なく次へ移行できるよう支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通困難な方は表情やサインを読み取るようにしている。アセスメントシートに記録し定期的に再アセスメントを実施している	入居時に利用者(家族)より聞き取り、関係機関からの情報を得て記録している。日々の生活で継続できる(毛糸編み・手作業・音楽を聴く・外気浴・散歩)ことは、レクリエーションや日常に取り入れている。歩くことを希望された方は、厨房からの食材搬入を努めている。職員は関わりの中で、利用者の言葉や表情・サインを読み取り記録に残し、申し送りで周知を図っている。計画へは必要に応じ組み込んでいる。アセスメントシート内容は、6ヶ月毎に見直し更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にこれまでの暮らし方や出来事を聞き取り、現状で出来ること、出来ないこと等のチェックシートを記入して頂いている		

京都府 グループホーム 京都壬生ケアセンターそよ風 たんぽぽユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小さな変化を見落とさないよう見守っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を取り入れたプランを計画し、原則3ヶ月毎に見直しを図っている。急変や、現状に合わなくなれば、その都度ケアプランの更新を行っている	ケア会議を毎月行い、個別にはサービス担当者会議を3ヶ月毎にモニタリングを兼ね行っている。家族の意見は面会時や電話等で事前に聞き、医療情報は診察時や診療記録で把握している。サービス内容は利用者から聞き取った(推測した)事の中から、本人の出来ることを話し合い、個別レクリエーションに活かしている。記録は習慣化されているが、介護提供時の利用者の反応等の記録が少ない。	サービス内容に検討したケア方法やレクリエーションの種類・注意事項等具体的に明記すると、個性が鮮明になり、より介護の統一が図れるのではと期待する。介護事項に対する記録スペースの検討も併せて期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人週報、介護支援経過記録、排泄表、水分量記録、バイタル記録を共有しモニタリングしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望に対し体制のゆるす限り対応に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科、看護の定期的な医療援助を行い、マッサージ等でリラックスの時間を設け外部との交流の時間を楽しめるようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の確認と協力医療機関の紹介をし自由に選んで頂く。往診時には職員が立会い変化が有れば報告し受診内容記録する	かかりつけ医は、月2回の往診を条件にしているが、利用者(家族)が自由に選んでいる。協力医療機関(クリニック回生の在宅部門)は24時間の対応が可能である。訪問看護(さくら)も24時間オンコール体制である。歯科医の往診も希望により受けることができる。他にマッサージ(週3回)を利用している人もあり、関節可動域運動・筋力維持に取り組んでいる。医師の診療記録を読み、病状把握を行っている。医療機関との協力関係は構築され、情報交換も出来ている。	

京都府 グループホーム 京都壬生ケアセンターそよ風 たんぽぽユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携病院、訪問看護師、併設するDS、SSの看護師と常に24時間相談できる体制が整っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の入居者の状況把握に努め、ご家族様と連絡をとり情報の共有を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には家族、医師、職員で話し合いの場を持ち、家族の希望が有れば看取り体制を整えている。1度だけの話し合いではなくその都度の状況に応じ家族の気持ちの確認作業を行っている	「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」に沿って、利用開始時から利用者(家族)との話し合いは行われている。重度化が予想される場合は、「介護度進行時のフローシート」の手順に沿い家族を交えた関係機関との連携をとっている。各自医師の往診・訪問看護体制は整っており、デイサービス所属看護師の応援を受けることもある。脱水予防の点滴は行っている。昨年は3例の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故時や行方不明時のマニュアルが有り応急手当、連絡関係等はマニュアルに沿い行動する		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回他併設のサービスと合同で日中、夜間を想定した避難訓練を実施し、1回は消防署立会いで行い、1回は自然災害を想定している	防災訓練はグループホーム・デイサービス・ショートステイ・厨房と合同で年2回行っている。内1回は、自然災害(前回は地震)を想定し行った。夜間想定では利用者と共に避難の実施訓練を行っている。避難方法として、非常階段・脱出シュートがある。地域の防災訓練には参加出来ていない。なお、自然災害時に近隣の人達が京都壬生ケアセンターに避難されることも予想され、職員体制や非常食等について現在検討している。	災害時の地域との連携は不可欠であり、地域の防災訓練への参加は実行されたい。また運営推進会議等で近隣との災害に係る協力体制について議題に挙げ、相談されてはいいかがでしょう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法令順守、接遇、プライバシー保護、身体拘束、虐待の内部研修を行い、独自に作成した虐待の芽チェックリストによる自己チェックを年3回実施し結果を職員間で共有している	全体会議で「尊厳」「プライバシー保護」の研修は行っている。会議時、態度や行動・言葉がけについて、具体的事例(トイレ誘導時等)を通話し合い統一を図っている。「虐待の芽チェックリスト」には尊厳やプライバシーに関わる項目もあり、職員は日々の戒めとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者へ話しかけを実践し思いの聞き取り、意思の決定の促し、手伝いを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりその人らしい生活をご本人の希望に出来るだけそえるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容使用の支援、またその人にあった好みの服装が出来るよう気配りしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食レク、外注弁当、喫茶レクを行いつつもと違った雰囲気、食事を楽しんで頂くようにしている	利用者の高齢化・病状の進行もあり、調理に直接関わる方はおられない。法人の管理栄養士の作成したメニュー表を基に、職員は利用者の嗜好を取り入れ料理している。刻み食・流動食も提供している。昼食時リビング内で、リクライニング用車椅子で流動食の食事介助を受けている方がおられる。月1～2回利用者の好みを聞き、仕出し弁当を注文することがあるが、普段と雰囲気が変わり好評である。美味しいスパゲッティを食べに、少人数の外食レクリエーションを楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に1日の水分、食事を記録し確認作業を行う。各自に応じた刻み食、とろみ補充、栄養食品の提供を行っている		

京都府 グループホーム 京都壬生ケアセンターそよ風 たんぽぽユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア実施。自立の方には促し声かけを行う。訪問歯科との連携をおこなっている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄表で確認。その方のパターンにあわせたトイレ誘導。トイレサインを見逃さないように職員間で声かけしている	排泄チェック表を利用し、その方の間隔に合わせた誘導や、トイレに行こうとする素振り等から排泄介助を行っている。屋間もポータブルトイレを好む方もおられるが、基本トイレでの介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便出来るよう朝食後のトイレ誘導実施。起床時に野菜ジュースや牛乳、ヨーグルトの提供を実施		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その時の気分やタイミングを見計らい誘導している	入浴は最低週2回とし、希望あれば対応している。入浴を拒否される方もおられるが、タイミングや誘導を工夫し入浴出来ている。個浴の湯は毎回入れ替えている。高齢者の皮膚への刺激を配慮し季節湯や入浴剤は使用していないが、個別にシャンプーや石鹸を使用する利用者もある。希望に合わせ同性介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理強いせず、マイペースで過ごせるよう心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	追加薬が有れば何故必要なのか申し送り共有する。症状に変化あればすぐに医師へ連絡している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お習字、編み物等の趣味が継続出来るよう支援しお茶会、季節の行事等のレクを通じて気分転換して頂いている。入浴後にビールを楽しまれる方もおられる		

京都府 グループホーム 京都壬生ケアセンターそよ風 たんぽぽユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な周辺散策は出来てない状況。館内散歩や、ガレージ散歩で気分転換を図っている	日常的には、事業所内での外気浴、館内の他ユニットやデイサービスとの交流を行っている。行事の花見は公用車を使って二条ロータリーに全員で出かけている。地域や小学校の運動会の観戦・地域の祭りの参加・初詣・買物同行・ウインドーショッピング・外食と少人数に分れ職員体制を調整しつつ工夫し、支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していないと気分が不安定になれる方には家族様承認のもと所持して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙については受け渡しをしている。電話もゆっくり会話を楽しんで頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの温度、湿度を確認記録している。入居者と一緒に作った季節の貼り絵等の掲示をしている	リビングは、車椅子が行き来しても十分なスペースがある。テーブルの脚に、ペットボトルを利用した杖立が取り付けられてあり、職員の思いが見て取れる。西日除けの窓は、すりガラスに2重カーテンとなっている。温湿度計が設けられ、管理されている。壁には利用者と共に作成した垣根に朝顔(折り紙)が夏の風情を醸し出している。カウンター上の3つの水槽では、巨大な金魚とスリムなグッピーが元気に泳いでいる。リビングや廊下にソファが置いてあり、好みの場所でくつろげる。集団での体操や個々に新聞を読む・パズルをする・会話を交わす利用者の姿がある。掃除は夜勤者が毎日行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席次に気を配り職員の気付きを大切にしている		

京都府 グループホーム 京都壬生ケアセンターそよ風 たんぽぽユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を自宅より持ってきて頂き自宅に近い環境にして頂いている	各室内には、木目のダンス・ロッカー・カウンターが設置され、ロッカーは1年間の衣類が収納できる大きさがある。物が片付き移動スペースは広い。利用者の生活習慣に合わせ、椅子やテーブル・テレビにラジオ・写真・各種縫いぐるみ・自製作品が置かれている。マラソンが趣味であった方の部屋には、多くのメダルが壁に飾られている。掃除は毎日行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印を作ったり、置き場所の工夫をし自身で分かりやすく動作できるようにしている		